

令和2年度 第1回伊賀・山城南・東大和定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事録

開催日時	令和2年7月20日（月）10：00～11：30		
開催場所	伊賀市役所5階 501会議室		
出席委員	久 隆浩（近畿大学総合社会学部） 湯瀬 敏之（京都府山城広域振興局） 奥田 詩織（社会福祉法人伊賀市社会福祉協議会） 高本 昌平（社会福祉法人南山城村社会福祉協議会） 奥谷 博文（社会福祉法人山添村社会福祉協議会） 岩佐 絹枝（伊賀市社会教育委員） 稲垣 八尺（一般社団法人伊賀上野観光協会） 松井 克夫（笠置町商工会） 杉本 佳也（伊賀市消防団） 松永 享二（島ヶ原地域まちづくり協議会） 大仲 順子（南山城村推薦委員） 神保 弘治（山添村推進委員）		
欠席委員	友田 明石（西日本旅客鉄道株式会社大阪支社亀山鉄道部） 河 治希（三重県伊賀地域防災総合事務所） 米田 学（奈良県南部東部振興課） 仲北 悦雄（笠置町推薦委員）		
事務局	伊賀市企画振興部長 宮崎 寿 伊賀市企画振興次長 月井 敦子 伊賀市総合政策課長 中矢 祐文 伊賀市総合政策課 竹森 昭治 内田 達也	笠置町総務財政課長 岩崎 久敏 笠置町総務財政課 袖木 広介 南山城村総務課長 廣岡 久敏 南山城村総務課 土井 充 山添村地域振興課 井久保 幸雄 廣 幸多	
議事日程	1. 開会 2. あいさつ 3. 懇談会委員の紹介 4. 伊賀・山城南・東大和定住自立圏構想推進体制について 5. 議事 （1）会長及び副会長の選任について （2）2019（令和元）年度の事業実績及び今後の計画について <質疑> 前半：医療・福祉部会、教育部会、産業振興部会、環境部会 後半：防災部会、交通・情報部会、インフラ部会、交流部会、人材育成部会 6. その他		

## 1. 開会

(事務局)

皆さんおはようございます。ただいまから 2020 年度第 1 回伊賀・山城南・東大和定住自立圏共生ビジョン懇談会を開始させていただきます。

本日の議事に入りますまでの進行を努めさせていただきます 企画振興部の月井でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の懇談会につきましては、原則公開とし、会議の傍聴を認めておりますことから、本日の会議を傍聴される方、報道関係者の撮影等がある場合は、ご了解とともにご理解をお願いしたいと存じます。また、本日の会議録につきましても公開させていただくこととなりますので、ご了解の程よろしくお願いいたします。

それでは、お手元の事項に沿って進めさせていただきます。

## 2. あいさつ

(事務局)

まず、はじめに、事務局を代表し伊賀市企画振興部長の宮崎よりご挨拶を申し上げます。

(企画振興部長)

皆さんおはようございます。伊賀市企画振興部の宮崎でございます。委員の皆様には非常にお忙しい中、また新型コロナウイルス感染症の拡大、いわゆる第 2 波が心配されるなか、こうして今年度の第 1 回伊賀・山城南・東大和定住自立圏共生ビジョン懇談会に参加いただきありがとうございます。ご存知の通り当定住自立圏は平成 28 年 10 月に伊賀市、笠置町、南山城村で設置されましたが、昨年 10 月から山添村が加入され全国的に類を見ない 3 府県を越えて 4 市町村が連携する県境型の定住自立圏になっている。この県境型定住自立圏ですが多くの方が県境を越えて生活圏を共にしているという状況でございます。冒頭、新型コロナウイルスの話をさせていただきましたが、4 月上旬に非常事態宣言が出され、他府県への移動制限が要請され、全国では他府県ナンバーの車で訪れる方々を誹謗中傷するという事件や事例が起こってまいりました。こうしたなか、いつも伊賀市に買物に行くのに、京都府、奈良県のナンバーの車では肩身が狭いといった話を圏域の皆様からいただくことがありまして、ナンバープレートは違いますが私たちは生活圏域を共にしている仲間ですということをアピールするために、4 市町村で協力して圏域証というものを発行することとしたところです。その圏域証は、資料の No. 4 につけさせていただいています。この圏域証ですが、3 町村で

は全世帯配布をいただいたこともあり、ネットからのダウンロードも含めて、約4,700枚発行させていただいたところです。この事例のように定住自立圏では同じ生活圏域にありながら市町村や、府県が異なるというようなことで、地域での暮らしやすさの障害になっていること、またこういうことに互いに連携協力して対応することで、圏域住民の暮らしやすさを図っていくことを、目標としているところです。

今日は皆様方には平成29年度より取り組んでまいりました定住自立圏共生ビジョンの計画の進捗状況に対する評価、あるいは今後の取組についてご協議いただくことが会議の中心となっているところです。生活しやすい圏域づくりに向けまして、忌憚のないご意見等をお願いいたしまして、意義ある会議にさせていただければと思っていますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

### 3. 懇談会委員の紹介

(事務局)

それでは懇談会委員の皆様を紹介させていただきます。

本日お集りの皆様には4月1日付で新たに懇談会委員に委嘱させていただきました。

テーブルの上に委嘱状を置かせていただいております。机上配布にて委嘱状の交付に変えさせていただきますのでご了承いただきます様お願いいたします。前回から引き続きご就任いただいている方もいらっしゃいますが、初めての方もいらっしゃいますので、私から、ご紹介させていただきます。皆さまには委員名簿を資料につけさせていただきますのでそれをご参考にご覧いただきたいと思っております。ご出席の方のみご紹介させていただきます。

まず、久隆浩さま、湯瀬敏之さま、奥田詩織さま、高木昌平さま、奥谷博文さま、岩佐絹枝さま、稲垣八尺さま、松井克夫さま、杉本佳也さま、松永亮二さま、大仲順子さま、神保弘治さま。委員の皆様2年間よろしくお願いたします。

なお、本日は、委員の半数以上の出席をいただいておりますので、会議は成立しておりますことをご報告いたします。

ここで当懇談会の事務局を紹介させていただきます。

事務局を預かっておりますのが、伊賀市企画振興部総合政策課でございます。

続きまして連携して取組を進めています各町村の担当課をご紹介します。笠置町総務財政課、南山城村総務課、山添村地域振興課、以上でございます。どうぞよろしくお願いたします。

事項の4番に入らせていただく前に、本日配布させていただきました資料をご確認

させていただきます。

お手元に事業計画実績表 A3 がございますか。それが先日お送りしたものの追加の分でございます。資料 3 の KPI の一覧があると思いますが、郵送させていただいたものの差し替えでございます。こちらの方もご覧いただきたいと思います。

先日送付いたしました資料を皆さんお持ちでしょうか。過不足がありましたら事務局の方にお声掛けくださればと思います。

#### 4. 伊賀・山城南・東大和定住自立圏構想推進体制について

(事務局)

それでは事項の 4 番、当圏域の推進体制について事務局より説明させていただきます。

—事務局から説明—

★資料 1-1 「伊賀・山城南・東大和定住自立圏構想推進体制について」

★資料 1-2 「伊賀・山城南・東大和定住自立圏共生ビジョン懇談会設置要綱」

(事務局)

以上の説明で何か質問ご意見はないでしょうか。よろしいか。

それでは議事に入らせていただきます。

#### 5. 議事

(1) 会長及び副会長の選任について

(事務局)

議事の一つ目、「会長及び副会長の選出について」でございますが、先程の資料 1-2 懇談会設置要綱をご覧ください。

要綱第 5 条におきまして「懇談会に会長及び副会長を 1 名置き、会長は委員の互選によって定める」と規定されております。

会長の選出につきまして、いかが取り計らったらよろしいでしょうか。

(委員)

近畿大学総合社会学部の久さんに会長をお願いさせていただきたいです。

(事務局)

ただいま、提案をいただきましたが、皆さんいかがでしょうか。

－異議なし－

それでは久会長にご挨拶いただきます。よろしくお願いいたします。

(会長)

それでは皆様方のお力を借りながら進めていきたいと思えます。

先ほどの部長の話にもありましたが、コロナで県境を越えるなという話の中で、圏域証を進めていったが故のいい方向に進められたと思えますし、大阪のニュースでも取り上げられましたので、この地域のビジョンの役割というのが全国的にも有名になったと思えます。こういう時期だからこそ、それぞれの市町村をこえて圏域をさらに密にしていきたいと思えます。今日も色々ご意見賜りたいと思えます。

よろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。

続きまして、副会長の選任でございますが、要綱第5条には、「副会長は会長が指名する委員をもって充てる」と書いてありますが、久会長、ご指名をお願いいたします。

(会長)

はい。それでは、私の方から、副会長は大仲順子様をお願いしたいと思います。

よろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございます。

それでは大仲様。副会長をお願いいたします。

それでは副会長にご挨拶いただきます。

大仲副会長様、よろしくお願いいたします。

(副会長)

皆さま、失礼いたします。ただ今ご指名にあずかりました大仲でございます。委員としては立ち上げ当初から参加させていただいているのですが、このコロナの時期におきまして、圏域住民を巻き込んだ一層の見える化を図って行って、また圏域で共生ビジョンが立ち上げられていて良かったなど、そういう会議にしていきたいと思えますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。

それではこの後は、同要綱第6条第1項により、「会長が議長となる」とありますので、会長により議事進行をお願いいたします。

## (2) 令和元年度の事業実績及び今後の計画について

(会長)

それでは、令和元年度の事業実績及び今後の計画についてお伝えしたいと思います。例年だと順に各部会に報告いただいていたのですが、今年度新型コロナウイルスの感染と対策の観点から会議時間をできるだけ短縮したいということで、事務局から全体を通して昨年度の主な取り組みについての報告をいただいた後、前半後半と部会を分けまして質疑の時間を設けさせて頂こうと思います。

まず、事務局から説明を頂こうと思います。よろしく申し上げます。

－事務局から説明－

★資料2「2019（令和元）年度を取組状況」

★資料3－1「共生ビジョン事業計画・実績表」

★資料3－2「施策KPI一覧」

(会長)

ありがとうございました。今日は全体を通して気になっているところや、また、色々な分野で活躍の方々ばかりなので、昨年度まで、あるいは今年度こういうことができたらなあ、そういうご意見でも結構かと思っておりますので、自由にご発言いただけたらと思います。ここから、前半として、医療・福祉部会、教育部会、産業振興部会、環境部会の内容につきまして意見交換をさせていただきます。どんな観点でも結構ですので、何かお気づきになること、あるいは想いがございましたらご発言いただけたらと思います。いかがでしょうか。

(会長)

先ほど事務局からご説明いただいたところで、私からご指摘させていただきたいと思っております。資料3－1の6ページで、「事業 NO.1214 病児・病後児保育事業」がありますが、ここはずっとCHECK（評価）が、D、D、Dと続いています。あえてこういう生活支援にあたる部分というのは、連携というよりも各市町村が身近な地域で頑張っているのではないかなと思います。ですので、今後必ずしも連携を図らなくても、身近なところではできるものに関しては、それぞれの市町村の役割に任せて、このビジョンの中からは外していくというのも1つの案かなと思います。全てDからC、B、Aと上げていくということでもないのかなと感じていますので、他の部会でももしそういう身近なところでやった方がより効果的なものに関しましては、今後ビジョンの中から外していくというこ

とも1つの検討課題かなと感じております。

(委員)

今、会長がおっしゃったことに関わってですが、説明の中にもありましたように地域の実態に合った、実態を踏まえた形にしてほしい。行政の面では連携というのは大事だと思うのですが、健康福祉や教育の分野というのは地域のニーズがすごく大きいと思う。それが、連携とってまとめてしまったような形の取組はいかなものかと思っております。そういう意味におきまして、地域の実態を踏まえた形の取組をしていただきたいと思います。

(会長)

圏域全体の連携の部分と、各地域できめ細かな施策の方がいいという部分とを分けて、うまく繋いでいくというお願いだと思いますので、そのあたりまたご検討いただければと思います。

(委員)

今、会長があげてくださった病児・病後児保育事業につきまして、周知の方法はどのようにされているのでしょうか。といいますのは、このビジョン懇談会の委員であっても、じっくりと読ませていただかないと、こんな事業をされていて市内在住以外でも活用できたのだと中々把握しにくい部分があるので、子育て世代の方々にこういった周知をされているかお尋ねさせてもらいたいです。

(医療・福祉部会長)

病児・病後児保育の事業の周知でございますけども、私の把握している範囲では、伊賀市内では各保育所・幼稚園、医療機関にチラシを配っているということは聞かせていただいています。連携町村につきましては、担当からそれぞれの担当へ連絡はさせていただいていると思いますが、それぞれの住民の方々への周知方法につきましては後程確認したいというふうに考えております。

(会長)

今のご質問は裏返して言えば、もっとPRしてくださいということかと思っておりますので、お願いしたいと思います。お勤めは伊賀市だけれどお住まいは南山城ということでいうと、子供さんを預けるときにひよっとすると勤め先の伊賀市の病児保育を利用した方がいいのかもしれないということを考えていけば、もっと親御さんの動き方に応じた連携の仕方もあるのではないかと思う。そのあたり、うまく他市町村のサービスが使えるような形の周知を私からもお願いしたいと思います。

(医療・福祉部会長)

この病児・病後児保育の利用につきましては、数年前、まだ山添村さんの加入以前にご利用いただいていた実績があったように思います。したがって、近隣の町村にも周知はされているかなと思います。ただ、それがどの程度まで周知されているのかは何とも言えないところです。

(会長)

脱線になりますが、大学も今、全てリモートという形で進めているなかで、全ての学生に情報が届かないといけないという状況に陥っている。一人もこぼさないとなってきた時に、今まで以上にどうやって周知するのかというところを真剣に考えるようになった。そういう意味で行政も、少し語弊のある言い方になるかもしれないが、こういう質問があった時いつも、「伝えています」と言われるが、「伝える」とこと、「伝わっている」ことは違うので、「伝わっている」とことというものについて、この施策以外でも、どうしたら「伝わっている」ことの確認ができるのかということも検討しながら、広報していただければと思います。

(委員)

観光事業に関して、関西線の活性化ということはずっと言われているのですが、中々進捗していない。どのように進めていくのか聞かせてほしいし、ぜひとも何とか考えてほしい。

鳥獣害防止に関して、伊賀市でも豚コレラの問題があったが、この部分の連携はどうなっているのか。1か所やっただけで収まるわけではなく、全体の連携が大切ではないかと思う。行政区域を超えた圏域での連携が大切だとおもうので、そのあたりの進め方をもう少し考えていただきたい。

防災に関して、笠置町の方に行くと163号線沿いの護岸をきれいにされていて、水が流れやすくなっている。最近の豪雨災害なども見ていると、木津川全域を考えて、もう少し水が途中ではけるような対策を連携して取り組んでいただきたい。

(会長)

色々な観点をいただきましたが、動物や水というのはまさしく府県を越えて動くので、そのあたりが一つ重要なテーマではないかというご指摘と思います。それでいうと、市町村連携も重要だが、府県レベルの連携や木津川でいうと国との連携も必要になってくるので、そのあたりの行政間の縦連携も考えながら進めていただきたい。それから、観光面でJRの話がありましたけど、もう少し東に行くと亀山まで繋がっていて、亀山も観光客が多い。いわゆる外国人観光客は奈良までは来ていただくようになったので、JRさんも奈良までは頑張ってくださいているが、さらに東にずっと繋いでいただくと色々な連携の可能性を感じますので、東へどういう形でうまく繋いでいって、利用者も増やしていけるの



かということもこれからも考えていただきたい。

(会長)

私からもう1点。資料3-1の13ページ、「事業 NO.1311 高校の進学範囲の拡大要望」もずっと「D」が続いている。府県を超えて伊賀市内の高校に通えるようにしようというものだが、昔はもう少し連携町村から伊賀市内の高校へ高校生も通っていたという話だが、今は中々そういうニーズがないのか、うまく呼びかけられていないのか、ここをこれからも深めていただきたい。高校もこれからどんどん生徒の数が減ってきて、生き残りをかけてたくさんの高校生に受験・通学してもらいたいというニーズは今後ますます出てくると思う。高校の魅力アップやそれをうまく伝えられるようなPRの戦略等をやっていけば、この施策も前向きに進んでいくのではないかと期待をしているので、部会でも検討いただければと思います。

(会長)

後半部分。防災部会、交通・情報部会、インフラ部会、交流部会、人材育成部会です。この内容に関しまして、ご意見、ご質問、ご要望ありましたらお願いします。

(委員)

不法投棄の問題ですけれども、道路の付近に色々と不法投棄をしている。各地域でもそういうことがあると思うのですが、私も一度パトロールをやったことがある。現場は中々見つけられず、捨てた結果しかわからない。それで色々報告をしたのですが、その後の事後処理の問題、どういう形で調査をして、それを処理しているのか聞かしていただきたい。

(事務局)

前半部分の分野のため、後程確認する。

(委員)

防災の分野で2点提案があります。伊賀市では、あんしん安全防災メールがあり、火事が起きた時にすぐにどこで火事がおきているかをメールで知らせるようになっている。伊賀市ではそういうメールが配信されているのですが、笠置町、南山城村では、おそらくそういったサービスはないのかなと思う。それを山添村さんも合わせて一斉に注意喚起等を知る情報システムがあったらいいなと思う。もう1点が、伊賀市の方で年に1回総合防災訓練を県と連携して進められていて、今年も10月に上野東部で開催されるが、伊賀市全体として取り組んでいる防災訓練を連携町村それぞれでも参考にできるものがあるのではないかと思う。今年度は新型コロナウイルスの関係で出来るだけ少ない人数で防災訓練をされると聞いているので、今年度は難しいと思うが、今後の検討材料にさせていただければと思います。

(会長)

私から関連して、資料3-1の39ページ。ここもずっと「D」が続いている。SNS等による連携という項目ですけれども、先ほどおっしゃったあんしん安全防災メールとSNSというのは、ある意味重なっているのかなと思う。伊賀市はそれなりに予算を持っていますし、職員さんもいて従事されているが、町村レベルになるとこういう情報システムをうまく構築して運用できる予算や人材は限られてしまう。いわゆる情報のプラットフォームというか情報のシステム構築は市町村を超えて連携してやっていただくことによって、うまく動くようになるのではないかなと思うし、他の面で言っても、それぞれの市町村が別々にシステム構築を委託するよりも、まとめて委託した方が業者さんもうまく動けるのではないかなと思うし、費用面も助かるのではないかな。せっかく連携を図ろうとしているので、こういう情報のシステム作りをもっとうまく連携してお互いが使いあうというようなことができたかと期待しています。

(委員)

私も防災行政無線を使っているが、山添村さんでは、そのシステムを更新されたように聞いているのですが、本当に更新されたのか、またどのような方法でされたのか教えてほしい。

(事務局)

山添村では防災無線を一斉に更新しております。財源をどうしたかというのは今ここでは分からないのですが、更新したことは事実です。また詳細につきましてはお知らせできればと思う。

(会長)

ありがとうございます。せっかくこうやって集まっていますので、先ほどご指摘いただいたように、同じようなシステムを動かしている場合は、横の情報交換でいいところを学び合っていただけるようなそういう機会にもしていただければと思う。

(会長)

他いかがでしょうか。

SNSについては、まだまだ十分にお使いいただける方というのは限られていますが、このあたりもうまく防災システムでご活用いただければなと思います。数年前ですが、佐賀県の武雄市で前市長の時に面白い試みをたくさんしていて、フェイスブック課というものを作られ、フェイスブックで色々な情報を流すというような試みをしていました。そうすると、各地域住民の方が、川の氾濫状況をフェイスブックやツイッター等で流していただくと即座に状況が分かりまして、市役所への問い合わせが減ったというのです。今回の

豪雨でもそうですけども、報道や市町村の方が現場に行くのがやはり遅れます。一番分かっているのが、住民の方です。ニュースでも住民の方が自分のスマートフォンで撮られた画像を使われるということも増えてきましたが、一番身近におられる住民の方々からの情報をいかに集約して流していけるかという点でいうと、もっともっとSNSをうまく活用していただくといいのかなと期待しているところです。

(会長)

他いかがでしょうか。

(会長)

交通の分野で私からもお願いしたいことがありまして、今回シンポジウムを山添村のふれあいホールでさせていただきましたが、伊賀市と山添村は名阪国道で繋がっているので動きやすいが、笠置町、南山城村に行こうとなるとまだまだ特に公共交通機関が弱い。せっかく圏域を作っているのに、公共交通機関でもうまくそれぞれの市町村が動けるような形でのネットワークを考えていただきたいし、ああいうイベントのある際に交通の便利不便が分かる。単に交通インフラを整備するだけではなく、交流部会のイベント等も交えていくと便利なのか不便なのか体感して分かると思いますし、交流を通じて交通インフラを充実させる等、うまく施策連携も図っていただければありがたいと思っている。必ずしも鉄道ではなくバスなど他の輸送手段も含めてより連携強化していただきたい。

(委員)

関西線の話で、ICOCAカードがどんどん普及して、ほとんどの方がカードで乗車される。乗車する時はカードで来て、降りる時はカードではない。笠置町もそうですし南山城村もそうです。機械だけでも設置できないか。ハイキングのお客さん等みえられるが、いつも聞きますと、電車の中での清算で手間取るということなので、そういうところの推進をできないか。

(会長)

ありがとうございます。私もいろんな所に出かけさせていただく機会があり、例えば大阪の南の方の貝塚を通る水間鉄道は、単線ワンマンで走っているのですが、ほとんどが無人駅です。降りる時は、列車内に機械がついていてそこで清算ができる。そういうシステムがありますし、また、京阪の京津線は無人駅でも駅の出口に機械があって、そこをタッチすれば出られるようになっていて、色々仕組みが整っています。

(事務局)

関西本線の話ですが、関西本線の活性化につきましては、定住自立圏より早くから、沿線市町村で構成した関西本線木津亀山間活性化同盟会で色々取組を進めているところで

す。そのなかには、もちろん南山城村さんも笠置町さんも伊賀市も入っている。また、木津市や亀山市、そういうところで構成しているわけですが、JR西日本さんとも色々話をしながら、来年の3月もしくは4月、おそらく3月中だと思うが、ICOCAカードの車載用の機械を設置する予定です。問題はチャージをする機械をぜひ入れて欲しいという話で、柘植駅の草津線ではチャージ機械が入っているが、関西線でも主だった駅でチャージ機械設置を強く要望している。また、今回のコロナ対策に合わせて、交通機関の利用が非常に減って大変なことになっている。そこを支援するために、伊賀市では、1,500円のお金を入れた2,000円分のICOCAカードを市民に全部で7,000枚配布をする。それで利用者を増やしつつ、そういうチャージ機などを伊賀上野駅あるいは柘植駅そういった比較的用户の多いところから設置をしてもらい取り組みを進めていくところです。沿線市町村で関西本線は、南山城村さんや笠置町さんと伊賀市を繋ぐ基幹的な公共交通機関となりますので、利用者がどんどん減っているなか、問題は圏域の皆さんに意識を持っていただいて利用いただくこと、ここが1番ネックで、利用者が増えればそういったより大きなサービスが増えてくるということですので、関西本線木津亀山間活性化同盟会の取り組みなども、定住自立圏の広報などを使って発信をさせていただきたいと思う。

(会長)

ありがとうございます。先ほども申しあげましたように、交流部会等で人が移動したくなるようなイベントを作っていただいて、利用者増にもつなげていけるような連携があればいいなと思います。前にも申しあげたかもしれませんが、兵庫県の豊岡市に但馬空港があります。ここも使わないと赤字が続くということで、私も促進のお手伝いをさせていただいているのですが、豊岡の遠足を飛行機で午前中の便で行って、海遊館で遊ばせて夕方の便で帰していただくような、いろんなところで皆さんに乗っていこうという動きをしています。そういう意味でできたらいろんなイベントの時あるいは行事の時に公共交通機関を使っただけのような、そんな促進をやっていただければと思います。

(委員)

柳生や月ヶ瀬は非常に歴史も文化もあってそこが参画できれば、観光や人の動きに関しては非常にいろんなことができそうだなと思うが、奈良市だから無理ですね。これは何とかならないか。聞かせてもらうたびに思うのだが、総務省などにも働きかけて何とか考えてほしいと思う。

(会長)

そこが核になって、また東、西の沿線に呼び掛けていただくということもあろうかと思っておりますので、特に観光なんかはそういう形でより広域の方が魅力アップするので、そこはまたご検討いただければと思う。

(会長)

他いかがでしょうか。

(委員)

どこで言おうかと思ひ、今の施策の中には入っていないが、資料4で配布されている圏域証について、迅速に動いていただいて本当に助かった。伊賀市に買い物に来る連携町村の全世帯に配られて、定住自立圏がこんなに便利なのだという、見える化の1つだったと思う。印刷もできるのでありがたいなと思うが、もし第2波、第3波に備えてこれを改定されるのであれば、キャッチフレーズなどを入れて、一般の人に公募するとか学生、子供たちを巻き込むとかして、定住自立圏をみんなに考えてもらう機会になればと思う。ぜひ公募等でデザインを考えていただければと思う。

(会長)

ありがとうございます。今回は緊急事態としてやられたわけですが、今後もう少し時間的余裕がある中で、PR手段としても使ったらいいのではないのかなというご提案です。裏面にも何かチラシを兼ねた印刷を打っていただいて、できるだけたくさんの方に周知の道具として使っていただければと思います。

(事務局)

ありがとうございます。今、会長からも話があったように緊急性が高かったということが1つあったのと、1つは圏域証をどうやって配布するのかということもあって、それぞれの町村さんではちょうど給付金を配らしてもらうタイミングと合致したということもあり、全町民、村民に届くような形でしてもらえたということで、非常に効果もあったのかなと思う。それから、都道府県レベルでは「けんいき」の漢字は「県」で、県域を大事にされて啓発をされていたのですが、やはり生活圏の「圏」も大事にしながら暮らしを守っていくことも大事なということで、特に地元の報道機関さんも取り上げていただき、関西方面でも取り上げていただいたということもありましたし、全国的なニュースでも取り上げてもらったりして、大変注目いただけたのかなと思う。配り方もそれぞれの町村の窓口に来てもらって本人確認するのか等議論もあったが、生活圏を共有しているという圏域証と言いつつPR的なものにすれば悪用もないので問題もないかなということでHPでも取れるようにさせてもらったし、全戸にも配布いただけて、非常に効果もあったし注目も浴びたのかなと思っているのですが、今も話があったようにこの取り組みだけでなく、子供さんにいろいろ取り組みの中に参画してもらうとか住民の皆さんにもこの定住自立圏の取り組みそのものに参画してもらうことはすごく大事な視点だと思うので、この圏域証でそういうことをできるのかとか、あるいは他の取り組みでもそうかも分かりませんが、今年度中々行政側の全体会も出来ていないので、こういう取り組みのこともみんなでも共有してということが少し難しかったが、またタイミングを見てみんなこんな取り組

みがお金をかけなくても出来たとかを共有して、あと住民の方にも参加してもらい取り組みというものも増やしていきたいと思います。

(会長)

ぜひともよろしくお願いします。

他いかがでしょうか。

(委員)

私もどこで言おうか悩んでいたのですが、この資料4の圏域証、本当にとっても助かりました。ありがとうございます。普段伊賀市に働きに来ているなかで、やはり京都府ナンバーということで引け目を感じていた。定住自立圏のこのビジョンのことを多くの市民の方また町村の方に知ってもらい機会の1つにもなったと思う。周りの方からこんな取り組みもさているのだなと、委員に入っていることから声をかけてもらうことも多くなった。また、車に貼り付けるだけでなく、公共施設の利用の際にも助かった。今回はこの取り組みでA4 1枚の紙ということだったのですが、もし車に貼るステッカーなどあったら、購入でも、自分が使うので買おうかなと思うのでご検討いただければうれしいです。あと、もう1点。シンポジウムに参加した際に驚いたのが、定住自立圏のキャラクターができたのですね。忍茶ちゃんは周知されていたのかなと驚いた部分があった。皆さん缶バッジを付けていたのでそんなものがあったのかとびっくりした。またそういったものも周知してほしい。

(事務局)

ありがとうございます。キャラクターは勝手に事務局で作ったのですが、いい機会でしたので缶バッジを作って周知させていただきましたので、これからまた皆さんに周知できるように考えていきたい。

(会長)

ありがとうございます。これも少し話がズレますが、伊賀市も各地区でまちづくり協議会を作っていますけども、宝塚市も20年前から各地区でまちづくり協議会を作っていますが、20年経っても中々住民さんにまちづくり協議会が認識されない。そこでどうするかを考えたなかで、キャラクターだという話になり、「まちキョン」といううさぎのキャラクターを作って、缶バッジやぬいぐるみを作ると、まず子供たちがかわいいから飛びつく。まちキョンというのはまちづくり協議会のキャラクターで、ではまちづくり協議会って何、というような形で繋げていって周知を図っていくという戦略をとった。そういう意味では、定住自立圏って何だろうかと説明をするよりも、そういうキャラクター等、何か人の目を引くところから、語らしてもらいところに持っていくというのも1つの戦略なので、もっともっと分かりやすい見える化を頑張っていたいただければと思う。

(委員)

今日初めての参加です。前回と前々回の概要を拝見するなかで、救急相談ダイヤルの話が出ていたかと思うのですが、2回利用したけども実際に名張の病院には行けなかったという発言があり、どういう理由で受け入れられなかったのか私も分からないのですが、実際に相談の電話をかけられて、でも最終的にはがっかりされたという話だったと思うのです。ですから、啓発、広報の話で非常に今いい話が出ていますけども、どういうところが出来て、どういうところが出来ないかというところを十分に周知するような工夫がいる。それから、行政サイドとしては救急ダイヤルに電話してこられる方、その次に何をニーズとしてお持ちなのかなというところまで含めての発想があった方が良かったのかなというふうに思います。それは、病児・病後児に係る事業についても結局相談したけどがっかりしたみたいなことにならないような行政としての工夫がいるのかなと思います。それから、圏域証について、迅速な対応で素晴らしかったと思うのですが、やはり素人が作ったデザインだなというところがありますので、せっかくキャラクターも作られたのであれば、キャラクターなども生かしながら親しみやすいデザインを工夫するといったこともあっていいのかなと思いました。それと ICOCA カードの関係ですが、関西線からの利用ということももちろん大切で、これがまず求めるべきところですが、キャッシュレス化ということと言うとコンビニで使えて、色々なところで便利に使えるという点との合わせ技で ICOCA カードを使ってみようという、幅広なところからの発想が広報には必要なのかなと感じました。

(会長)

ありがとうございます。このコロナ禍での各地域の対応に色々と違いが見えてきていて、大阪の茨木市は市役所職員さんが日ごろから若手のアーティストの方と情報交換・連携をしているんなイベントと一緒にさせてもらったりしている。そういうデザインをできる人たちが仲間につけておくと、こういう時にもすぐに頼める。こういうことは普段から様々な方との人的ネットワークをはっておくことが重要かなと思いますので、そこも付け加えさせていただきます。

(委員)

今日はずっと聞かせてもらっていたのですが、このコロナ禍の間、世の中の動きがだいぶ変わってきた。その中で一番思わないといけないのは、行動は変わっているけども中々心の中は変わっていないということ。何を言いたいかというと、今日こういう会議に出席されている方は非常に意識が高く、郷土愛があり、地域の発展を願うことがあって発言もされていると思うのですが、中々伊賀市、笠置町、南山城村、山添村というのは、歴史のあるまちであればあるほど地域性が強く表れていると思います。それは、役場、市役所1つでもそれぞれ差があると思うのですが、そんななかで、何をしないといけない

かというのは、一番困っている人が何を求めているかというニーズをつかみ取らないといけない。例えば、山添村でしたら、先日、国から10万円の給付がある時に、山添村は1万円余分に出してくれました。今までにないことだなと。だけどそれはなぜ出せたかという、山添村は1年間に10人か15人しか子どもが生まれないから、予算取りも簡単にできる。伊賀市で1年間に新生児が何人生まれるのか知りませんが、例えば新生児が生まれたら住民票を出しに来るわけなので、その時に来た人に定住自立圏で他市町村のこういった施設が利用できるというような案内を渡してもいい。伊賀市はこんな取り組みをしているから子どもさんがお困りのことがあったら、利用できることがあるかもしれないからここへ問い合わせてもらってねとか、要は求めている情報を求めている人に簡単に伝えることの手立てをすれば出来るのではないかなと。それから関西線の話もおっしゃっていましたが、今これだけ人口が減って、ましてコロナで移動が少なくなると思うのですけども、コロナでなかったとしても関西線の利用促進は非常に難しいこと。だけど、日本全国を見ていると今は撮り鉄であるとか、電車が好きだという人をターゲットにして、公共交通機関を移動の手段ではなくそれ自体を観光というような売り込み方をしないと利用はできないと思う。何を売りにするかということを探っていけないといけないし、いろんなアーティストであったり、ミュージシャンであったり、そういう芸術的な分野で若い人がいれば協力してもらって、その人のためでもあるし、地元の発展にも寄与するという方法について知恵を出して、できるだけお金を使わずに、自分の周りのいろんな人に意見を聞いてこういう場所で持ち寄ってやっていくということがこの会議の意義ではないかと思う。

(会長)

ありがとうございます。それぞれの市町村で作成している総合戦略の相乗効果でよりアピール力が強くなっていく部分もあるのではないかと、委員の話も聞かせてもらって思いました。ちなみに、伊賀市では若者会議といって、最近若い子たちがいろいろなことを動かしている。私が知っているなかでは、南山城も若手が元気で、それを圏域で繋げていくということも何か面白い発想ができるのではないかと思います。

(会長)

他いかがでしょうか。

(委員)

少し宣伝になるかもしれませんが、広報ということで、私は10年前から「この指とまる会」という任意の団体を作っているのですけども、作ったきっかけは、やまなみホールが島ヶ原から10分くらいのところにあって、伊賀市のホールを利用するよりも近いという点があり、素晴らしいホールということで何度か使わせていただいています。そのなかで、だんだんと使われてきていないなと感じたので、10年前にちょうど友人が南山城にいたので、話を持ち掛けて、何とか自分たちで活性化に繋がる何かをしよう、何ができるだろう



と色々と考えて、最初はその時話題だった絵本作家の宮西さんという方をお呼びして、おはなしフェスティバルという親子をターゲットにしたものを開催しました。地域でおはなしサークルをされている方が多いので、そこに全てに呼び掛けて、やまなみホール始まって以来の立ち見が出て大成功に終わりました。それが、伊賀市、名張市と回を重ねて回っているのですが、そのなかで色々形を変えてやらせてもらっています。そのメンバーが伊賀市、南山城村、笠置町の方と一緒にやらせてもらっています。今度、コロナで出来るか不安なのですが、おはなしの延長で、大人のための朗読コンサートというものをさせていただきます。この時に、それぞれのメンバーが広域にわたっているので、教育委員会とか市町村の後援をいただきたいと思って、今までは1つ1ついただいていたのですが、これが今回初めて定住自立圏推進協議会の後援をいただくことができました。それで、より広く知っていただくことができるのではないかなと思っています。

(会長)

ありがとうございます。もうすでに色々な活動をされている住民の方々が地域におられると思いますので、そういったネットワークをもっと図っていただき、その方々がやられる活動をうまくみんなで共有してより元気にしていただけるとうれしいなと思います。

(委員)

私どもは観光分野の仕事をさせていただいており、コロナ禍を身近にひっ迫して感じている。事業のKPIの一覧も入れていただいているのですが、コロナによって数値目標が変わったりするところも出てくると思う。生活様式が変わるとよく聞かすが、結構この地域の方はアナログ的だったりする。このコロナの世の中になってくるともっとSNSを使ったような上手な賢い情報のやり取りをするような仕組みを地域に定着させることが必要で、例えば老人クラブで何かSNS事業をしてみる等。実際高齢者の間にSNSが普及しているのかもしれないが、普段会員さんと話している中ではまだまだ情報発信、収集の仕方がアナログ的なので、そういうところをこれから行政的にも強化していただけたら、急な時にコミュニケーションの取り方が違ってくるのではないかなと思うので、ご検討よろしくお願いします。

(会長)

ありがとうございます。明石市では、地域活動をサポートするコミュニティ創造協会が4月にリモート会議の講座を地域の役員さんに向けてされました。地域の住民さんの中にも使える人がいて、明石市ではこの5月、6月の地域の会議がかなりリモートでやれるようになった。そういう使い方講座みたいなものをしていただくことによって、より使い手が増えると思います。今はスマートフォンでも簡単に情報が手に入るようになっているので、そういった講座などを企画していただいて使えるようにしてあげると、どんどん使い手が増えてくるのではないかと期待している。

	<p>(会長)</p> <p>もう全体的な話になっていますが、せっかくの機会ですので何かご意見等ありましたらご発言ください。この懇談会そのもののあり方に関するご意見でも結構です。いかがでしょうか。</p> <p>(会長)</p> <p>よろしいでしょうか。今日は事務局に説明をコンパクトにやっていただいたおかげで色々情報交換ができました。懇談会の本来の目的は昨年度の事業評価の報告ということですが、今日みたいに色々お知恵やご意見を賜りながら、今年度以降の事業に展開できたらなと思いますし、先ほども情報をいただきましたが、もう既に色々なことをやっていたり、情報をお持ちの方はぜひともそういうものを出していただいて、今後も共有していただきたいですし、行政だけではなく住民さんのお力を借りながらこのビジョンを進めていくということも非常に重要な観点ですので、今後いろいろな情報を共有していただければと思います。</p> <p>他にないようでしたら、ここで議事を終了させていただきます。ありがとうございます。それでは、事務局に進行をお返しします。</p> <p><b>6. その他</b></p> <p>(事務局)</p> <p>会長様、長時間にわたりましてありがとうございました。</p> <p>それでは、議事以外の部分で、会議全体を通じて委員の皆様から、何かご質問、ご意見等ございましたらお願いいたします。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>それでは事務局より事務連絡をさせていただきます。</p> <p>—事務局から事務連絡—</p> <p>事務局からは以上でございます。</p> <p>これをもちまして、本日の会議を終了させていただきます。どうもありがとうございました。</p> <p style="text-align: center;">— 11 : 30 終了 —</p>
<p><b>議事概要</b></p>	

